新品種候補（2012年１月作成）

－－－

２．特記すべき特徴

「Ｈ１３９」は、「スタウト」より根重および根中糖分がやや優り、糖量が多い。そう根病抵抗性および褐斑病抵抗性が“強”、黒根病抵抗性が“やや強”であり、耐病性が優れる。また、不純物価がやや低く、製糖品質が優れる。

３．優良品種に採用しようとする理由

テンサイ褐斑病は７～８月が高温多湿な年に発生が多い病害である。テンサイ褐斑病の被害は薬剤防除を行うことで軽減をはかることができるものの、適期に防除が行えない場合には、減収する可能性が高い。平成13年に優良品種となった「スタウト」は、褐斑病抵抗性“強”の品種として、平成20～22年には約3,300ha栽培されている。しかし、現在の主力品種に比べ糖量が少なく、そう根病抵抗性を有しない欠点を抱えている。テンサイそう根病は防除が困難な土壌病害であるため、発生圃場では抵抗性品種の作付けが不可欠である。また、発生圃場の近隣地域でもそう根病の被害拡大を防ぐ観点から、抵抗性品種の作付けが望まれている。

「Ｈ１３９」は、褐斑病抵抗性が“強”と「スタウト」並に優れ、現在の主力品種より糖量はやや少ないものの、「スタウト」より根重および根中糖分がやや優り、糖量が多い。また、そう根病抵抗性を持ち、黒根病抵抗性は“やや強”と「スタウト」並で、耐病性が優れるとともに、不純物価が「スタウト」よりやや低く、製糖品質が優れる。

以上のことから、「Ｈ１３９」を「スタウト」に置き換えて褐斑病発生の懸念が高い地域に普及することにより、同病害による減収の回避およびそう根病の被害拡大防止が期待され、農家の所得向上およびてんさいの安定生産に寄与できる。

４．普及見込み地帯

北海道一円

図　「Ｈ１３９」の糖量

●:てん菜輸入品種検定試験、
品種連絡試験成績(平成20～23年)
(対「スタウト」百分比表示)

○:輸入品種現地検定試験成績
(平成22～23年)
(対「モノホマレ」および各地域の
比較品種に対する百分比表示。
斜字体が各地域の比較品種対比。
各地域の比較品種は、
真狩村「フルーデンR」、
美瑛町「かちまる」、斜里町「レミエル」)

５．栽培上の注意

１）根腐病抵抗性が“弱”であるため、適切な防除に努める。